



『東北圏だより』



「21年度を振り返って」

東北圏広域地方計画推進室 副室長（環境調整官） 原田 吉信

平成21年度も残りわずかになりました。この紙面をお借りし、今年度の取り組みを振り返り、推進室からのお詫びと反省をさせていただきます。

今年度は計画策定のラストスパートから始まりました。昨年度末に整理した計画中間整理案に対する市町村の意見照会を4月に実施すると、すぐに計画原案の作成と、計画推進のための広域連携プロジェクトに対する推進プロジェクトチーム（PT）の提案をさせていただきました。このPTについては年度を跨ぐ説明と議論の末に5月末にやっと皆様から同意を得ることが出来ました。6月に入ると協議会を開催し、計画原案とともにパブリックコメントのご了解をいただきました。7月には有識者からの意見聴取のための懇談会を開催し、東北各地での説明会も実施し、パブリックコメントの終了とともに計画案を作成することが出来き、8月4日に国土交通大臣の決裁が行われ、計画が策定されました。

その後は、計画推進に向けた主査機関による8つのPT（予定も含む）の発足が行われ、広域連携プロジェクトの実施に向けた検討の最中です。また、計画の周知のためのシンポジウムも11月と2月に開催することができました。

私はこの業務を通じて、仕事の進め方に気がついたことがあります。それは「議論無くして賛同無し、批判無くして理解無し」です。一つのことを説明し理解を得て、賛同を得るためには、多くの議論と批判が必要だということです。事実、今年度の会議や打合せで皆様に多くの説明をさせていただきました。その都度、多くの批判を受けましたが、結果として皆様の理解を頂き、現在の状況を迎えられたと思っております。もちろん、我が身の浅才無学さとともに、構成機関の皆様の温かい御指導があったことはもちろんです。次年度以降もこのことを忘れずにこの業務の推進にあたらせていただきますので、さらなる皆様のご支援・ご協力をお願いして今年度のお詫びと反省の弁とさせていただきます。本当にありがとうございます。

シンポジウムの開催報告

2月27日、ホテルメトロポリタン仙台において、東北圏広域地方計画協議会と東北大学との合同による「東北の地域を考える」シンポジウム・『身近なお宝再発見』～東北らしさを活かすために～を開催し、一般市民の方が約200名参加しました。はじめに、東北大学の奥村教授と平川教授に基調講演をいただき、その後のパネルディスカッションでは4名のパネリストの方から地域ならではの取組紹介や、「東北のお宝」を活かした取組や「東北らしさ」とは何かを議論いただき、今後計画を実行する上での貴重な意見や提案をいただきました。

■基調講演 「地域の宝を活かしてつくる新たな国土」

奥村 誠 氏（東北大学教授 東北アジア研究センター
兼 工学研究科土木工学専攻）

「東北の歴史に探る未来の宝」

平川 新 氏（東北大学教授 東北アジア研究センター）

■パネルディスカッション「東北らしさを活かすために」

コーディネーター 森杉 壽芳 氏（東北圏広域地方計画懇談会 座長）

パネリスト 泉田 十太郎 氏（けせんプレカット事業協同組合 専務理事）

大原 久治 氏（雪国植物園 園長）

佐藤 良吉 氏（横手市 建設部長）

島津 憲一 氏（三宿地域連携協議会 事務局長）

奥村 誠 氏（東北大学教授）

平川 新 氏（東北大学教授）



▲基調講演 奥村教授



▲基調講演 平川教授



▲パネルディスカッション

第14回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会の開催報告

2月5日、東北地方整備局大会議室において、第14回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会（以下、「幹事会」という。）が開催されました。

はじめに、広域地方計画の進捗状況を把握・検証するためのフォローアップについて、事務局より、モニタリング指標(案)等の資料に基づき説明があり、構成機関からは、その手法と方向性に関し、概ねの了承がありました。

次に、昨年12月16日に開催された第1回取組推進プロジェクトチーム全体会議における議事の概要が事務局より報告された外、本年度内に設立予定のプロジェクトチーム（以下、PT）の主査機関からPT設立までのスケジュールと現在の進捗状況について、説明・報告がありました。

また、事務局から、今年度中の取組予定として、2月27日に東北圏広域地方計画協議会と東北大学との合同で「東北の地域を考える」シンポジウムを開催することについて、説明があり、構成機関から了承があった外、来年度の予定として、協議会・PT関係の開催や広報活動関係、その他の取組として東北大学との勉強会、各県総合計画との関連分析等のスケジュール、国土計画局関係の予算概要について、説明・報告しました。



▲第14回幹事会の様子

取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

第1回『東北発コンパクトシティ』取組推進PT会議

2月22日に、「東北発コンパクトシティ・プロジェクトチーム（以下、PT）」設立会議を開催し、PTが設立されました。東北発コンパクトシティは、広域連携プロジェクトのうち、「6. 都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト」の主要施策として位置づけられております。

PT設立会議では、主査機関の東北地方整備局をはじめ、参画機関である国の機関や県の担当者、モデル都市、また、アドバイザーとして3名の学識経験者（福島大学鈴木教授、弘前大学北原教授、東北大学院姥浦准教授）が参加し、PT設立の目的や今後の進め方について確認を行いました。また、整備局から平成21年度の実績状況を報告するとともに、モデル都市の横手市と長岡市から事例紹介をしていただき、各市の実績について意見交換を行いました。

今後、PTでは、東北発コンパクトシティの実績を具体的に推進していくため、モデル都市の実績をケーススタディとしながら「共通理解の醸成」、「各種取組についての情報共有」、「取組等の周知活動」、「課題解決に向けた検討・支援」等を行っていく予定です。

当面は、応募があった横手市と長岡市をモデル都市としてスタートしますが、引き続き、「東北発コンパクトシティ」の周知活動を行うとともに、参画機関あるいはモデル都市として応募をいただけるよう、地方公共団体と調整していく予定としております。また、モデル都市は各県1つ以上を目標に、随時受付をしておりますのでよろしくお願いいたします。

○問合せ先：東北地方整備局 企画部広域計画課 計画調整係 TEL:022-225-2171（内線3221）



▲取組推進PT会議の様子

編集後記

2月27日に開催した「シンポジウム」について、今号で紹介しておりますが、基調講演をいただいた奥村先生の「(今までマイナスイメージであった)東北の北国性や多自然さは今後強みになる。」の話は“目からうろこ”でした。講演内容については、後日、HP等でご紹介したいと思います。今後の計画推進に役立てていきたいと思っております。(佐藤)

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。
メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp